

看護・保健部門

受賞者： ^{こんどう}近藤 ^{じゅんこ}潤子（84歳）

天使大学大学院助産研究科 特任教授



近藤潤子氏は看護界で長年活躍し、現在も天使大学の特任教授として大学院教育に携わり、後輩の指導を続けている。日本看護科学学会を初め諸学会での学術活動ならびに評議員、理事、理事長を歴任。国内外で大学院の設立やコース開設、カリキュラムの拡充など、グローバルな視野で看護学の発展に尽力している。

日本初の看護短期大学を卒業後、米ボストンカレッジ看護学部修士課程を修了。帰国後は天使病院に勤務し保健指導部を開設、部長として妊産婦、乳幼児の保健指導、家庭訪問等、地域ケアを先駆的に行った。その後、東京大学大学院医学系研究科保健学博士課程で学ぶ。聖路加看護大学教授として日本初の私立大学大学院修士課程の設立に貢献した。同大学では、日本初の博士課程設立に参加。看護教育、看護学研究の教育に尽力した。

海外においては、エジプトの看護教育発展のために JICA 専門家として 29 年間、保健人口省、カイロ大学小児病院、カイロ大学看護学部の教育施設・教育プログラムの拡充に貢献した。また、エジプトと協働してアフリカ看護指導者研修の指導を行った。パラグアイの看護人材育成にも尽力した。さらに、ICM（国際助産師連盟）では 1999 年から理事として 9 年間アジア太平洋地域の代表を務め、世界の母子保健の推進に貢献した。2007 年から助産評価機構の設立・運営に参画し、助産専門職大学院の認証評価を助産所評価へと進めた。2015 年には助産師実践能力認証制度を開始し、監事としてその指導力を発揮している。

現在、学校法人天使学園理事長として、特任教授の職務とともに、看護師、保健師、助産師、管理栄養士等の人材育成事業の運営にあたっている。

国内外を問わず、人材の育成、そのための教育システムを創出すること、育てた人材が継続して次世代を育むことを見守り、その一貫した活動が看護職の道を照らし育み続けている。

推薦者： 萱間 真美 公益社団法人日本看護科学学会理事長
岡本 喜代子 公益社団法人日本助産師会会長
高田 昌代 一般財団法人日本助産学会理事長